



山岡けんじ

「集団的自衛権行使を認めろ！」 「活断層があっても原発を稼働せよ！」 暴論を振りまく葛西会長!

5月13日付『産経新聞』の「改革」あれこれ欄に、「消極的な説明責任の罫」というタイトルで、またもやJR東海葛西会長が暴論を展開しています。内容は、「回避的説明責任の罫にはまっている」とした上で、

2点について主張しています。

1つ目は、原子力規制委員会が活断層らしきものが存在することを理由に敦賀原発の再稼働を認めないとの判定に対し、「無数のリスクの中で営まれる人間界の一側面のみについて悠久で絶対の安全を強いることに意味があるのか」と、安全が確認できなくても原発を稼働させるための説明をせよと主張しています。

2つ目は、憲法9条の解釈について、「集団的自衛権の行使を認めないという彼ら(内閣法制局)の解釈論は、憲法の大前提を無視し、…説明責任の回避に他ならない」と、武力行使を禁止している憲法9条があっても戦争せよとの主張です。最後に、「原子力規制委員会と内閣法制局はどう責任説明を果たすのだろうか」と締めくくっています。憲法や法律などを無視して進めという、暴論中の暴論だといえます。

ところで、住民や労働組合に対して、リニア中央新幹線の説明責任を果たしていないのがJR東海ではありませんか。最も無責任なのは葛西会長あなたなのです。JR東海労は葛西会長の主張を許さず、反戦・平和、反原発、反リニアの闘いを推し進めていきます。

リニアの説明責任を放棄しているJR東海! 自ら襟を正すのは葛西会長自身だ!

「改革」あれこれ



消極的な説明責任の罫

JR東海会長 葛西敬之

いかなる組織のリーダーも職務に依拠する。他人に無責任に責を押しつけて説明責任を負う。この3つがある。今の日本は無数のリスクの中で営まれる人間界の一面のみについて悠久で絶対の安全を強いることに意味があるのか、判断に迷った時に、回避的説明責任の罫にはまっている。この罫にはまっている。回避的説明責任の罫にはまっている。

「敗戦時と同様である。広島・長崎に原爆が投下されてから、同様の事態(同)は本上戦に説明する義務を求めた。自ら敗戦の説明責任を負うことを拒んでいなかった。最後は条件付き決定し、大戦の敗戦前、軍人は来日して、彼らは自ら大戦の愚断を認め、彼は必死に争って来た。彼は自ら大戦の愚断を認め、彼は必死に争って来た。彼は自ら大戦の愚断を認め、彼は必死に争って来た。